

学校賞コメント

● 大妻中野中学校（東京都）

私が学生のころ、「海外」「外国」はあまり身近なものではありませんでした。自分が怖じ気づいてしまった短期留学へ挑戦する友人を尊敬の思いで見送ったことを、今でもふと思い出します。しかし、時代は変わり、現代は「グローバル社会」。世界中で多くの日本人がさまざまな分野で活躍しています。私たち大妻中野では、その社会の「波」を上手く乗りこなし、自分らしく活躍できる女性の育成を目指しています。グローバルなもの考え方・捉え方を可能にするためには、まず「豊かな国際感覚」を身につけること。まず、その第一歩として、中学1年生には、グローバル社会の現状と向き合ってもらいたい。その思いが、貴団体の読書コンクールへの応募に繋がっています。コンクールで出会った一冊から、一人でも多くの生徒たちの目が世界へ向かい、いつかこの学舎を巣立つ時に大きく羽ばたくきっかけになってほしいと、私たちは強く願っています。

● 関西創価中学校（大阪府）

コンクールへの応募も3年目となり、夏休みの課題として定着してきました。そして、コンクールを通して、着実に、世界を身近に感じる機会を得ているように思います。本年、「わたしはノジュオド、10歳で離婚」を読んだ生徒が多かったのですが、本を通して、自分たちが知らなかった世界を知ると同時に、自由な「選択」ができる環境にいる自分たちが、何をどう選択し、行動していくかについて考える時間をもてたようです。本校では、毎年、未来に向かって、どんな自分になりたいか、どんな未来にしたいかを考え、宣言の形にまとめるのですが、今年の3年生は、「感謝を行動で示し、友好の連帯を広げ、自他共の幸福を築いていきます」と思いを綴りました。中学生の自分たちにできることは限られているかもしれないけれど、その中で何ができるかを考え、少しでも行動をおこしたい、そんな思いが少しずつ積み重なっていると実感しています。

● 大妻嵐山高等学校（埼玉県）

このたび学校賞を受賞でき大変光栄です。ありがとうございます。本校では「グローバル・エコサイエンス・スクール」をカリキュラムポリシーに据え、国連の持続可能な開発のための2030アジェンダにおけるSDGsの達成に向け、「誰も取り残されない」世界の実現に少しでも尽力する生徒を育成したいと思っています。生徒たちは、今回のコンクールを通して、世界の多くの女性たちが貧困・児童労働・性的な虐待等で苦しんでいる現状に心を痛めたようです。また、自分の恵まれた境遇に感謝しつつ、広い視野を持って国際社会を洞察することの大切さを痛感できたようです。特に、ジェンダー平等の実現について。三月に実施するカンボジアスタディーツアーで小学生や高校生との交流を計画しています。この活動にも今回の読書体験が十分活かされると信じています。生徒たちが如何に準備し、如何に当日活動するか楽しみます。

● 広島女学院高等学校（広島県）

本校は創設以来131年にわたり「平和を創り出す女性」の育成を目指し、教育実践を行ってきました。2014年、文部科学省よりSGH（スーパーグローバルハイスクール）に指定されたことを受け、国内にとどまらずグローバルな視点から「平和」の構築に向けたプログラムを課題研究に取り入れています。貴団体の実施するこのコンクールは、本校の教育目標にマッチしており、世界が抱えるさまざまな問題について深く考える機会にもなると考え、昨年度より、高校2年生の夏休みの課題のひとつとしました。多くの生徒たちは、教育を受け、自らの意志によって人生を選択できる環境を当たり前と捉えています。しかし、課題図書を通じて、世界にはかくも過酷な環境下で、自身の人生を切り開いていった女性がいることを知った瞬間、何かに気づき、自らの歩みを見つめ直しています。貴団体のコンクールを通じて生徒たちが貴重な経験を積んでいること、そして、学校賞までいただいたことに、この場をかりて厚く御礼申し上げます。

● 弥富市立弥富北中学校（愛知県）

学校賞をいただき、ありがとうございます。第1学年の昨年度は、「世界には様々な人や文化が存在すること」「私たちは世界とつながっていること」を学びました。今年度は、総合的な学習の時間のテーマを『夢みる力～自分の世界を広げる～』として、地球市民である私たちが、SDGsなど地球が抱える課題に対して何ができるのかを学んでいます。今回の読書感想文コンクールに参加するにあたり、一クラス分の課題図書を準備し、読みつないでいくという形を取りました。同じ本を読んだ仲間と、印象に残ったところを語り合う姿がありました。また、中学生である自分たちがもつ大きな力や行動する勇氣、具体的な方法について、新しい視点をもつことができました。今後は、国際貢献について調べたり、東京オリンピックに興味をもったりするなど、自分の世界を広げる学習を続けていきたいと思っています。